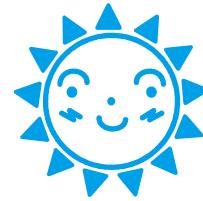


# 知つて備える応急処置

特集



夏真っ盛り！

## 注意しましょ「熱中症」

### 熱中症の予防と応急処置

#### 症状

熱中症は高温の環境下で発生する障害全般を指します。気温が30度を超えるような暑い夏、屋外で農作業をしていると熱中症にかかるケースが少なくありません。太陽の強い日差しの下で長時間作業をしていた場合に起きやすい日射病、締め切った暑い場所での作業中に起きる熱射病などがあります。

主に、めまいや吐き気、頭痛、だるさなどの症状が現れ、時に体温が40度を超えて意識障害に陥り、亡くなる可能性もあります。



水分と塩分補給

【ポイント②】服装に注意  
通気性の良い服を着て、帽子をかぶりましょう。

### 【ポイント③】こまめに水分補給

「のどが渴いた」と感じた時には、すでにかなりの水分不足になっていることが多いもの。定期的に少しずつ水分を補給しましょう。特に夏場は汗と一緒に塩分が失われるごとを考えると、スポーツドリンクなどを飲んだり、お茶と一緒に梅干しなどの塩分を含む食品を口にするといいでしよう。

- 日陰の涼しい場所へ移動する
- 衣類をゆるめて休む
- 体を冷やす

この時、水分だけではなく、汗によって失われた塩分も補給する必要があります。スポーツドリンクなどを少しずつ、何回にも分けて補給しましょう。



涼しい場所で衣類をゆるめて全身を冷やす

### 意識がはつきりしない場合は

反応が鈍い、言動がおかしい、意識がはつきりしない、意識がない。こういった場合はすぐに救急車を呼びましょう。

また、意識がはつきりしない、もしくは意識がない場合の水分補給は厳禁です。また、吐いてしまった場合にのどを詰まらせないよう横向きに寝かせましょう。

### 熱中症にならないために

#### 【ポイント①】体調を調べる

睡眠不足や風邪気味など、体調の悪い時は無理をせずに農作業や外出は控えましょう。

【熱中症になってしまったたら】  
「熱中症かもしれない」と思ったら、まずは真っ先にしなければならない基本事項です。いざという時のために、ぜひ覚えておこう。

## 農薬散布中に気分が悪くなったりしたことはありませんか？

～農薬中毒の予防と応急処置～

### 症状

農薬は使用を誤ると危険があるので、その毒性をしっかりと認識し、扱いには十分注意する必要があります。皮膚から吸収される農薬の毒性を1とすると、口から入った場合はその10倍、鼻から入った場合は50倍に高まるといわれています。

中毒の症状は、使用した農薬の種類によつて異なりますが、大きくは次の3段階に分けられます。

（軽症）頭痛、頭が重い、めまい、吐き気、気持が悪い、など

（中等症）嘔吐（おうと）、腹痛、発熱、歩行がよたよたする、など

（重症）意識がはつきりしなくなる、全身けいれん、口から泡を吹く、など

### 農薬中毒にならないために

#### 【ポイント①】保護具の着用

防除用の保護衣、マスク、ゴーグル、手袋、長靴などを着用し、皮膚の露出を避けましょう。

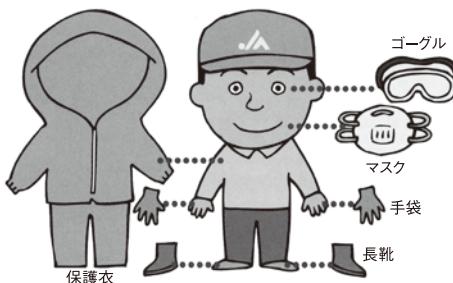
特にマスクの役割は重要で、鼻と口をしっかりと覆い、農薬の侵入をガードします。

**【ポイント②】農薬付着を避ける**  
散布に当たっては、風のない日を選び、後退しながら散布することで農薬付着を少なくすることができます。

**【ポイント③】付着した農薬の除去**  
散布作業後は、うがいや洗顔、入浴をし、全身をよく洗いましょう。

散布作業後は、うがいや洗顔、入浴をし、全身をよく洗いましょう。

### 保護具着用を徹底しましょう



### 応急処置の仕方

できるだけ初期のうちに手当てすることが大切です。散布中に頭痛がしたり、気分が悪くなったりしたら、この段階ですでに農薬中毒の入口にいるわけですから、すぐに作業を中止します。

### ●飲んだ場合

農薬が口から入つて間もない段階なら、水または食塩水をコップ2～3杯飲ませ、農薬を吐かせます。ただし、意識がない時には無理に飲ませないこと。

**●皮膚や衣服に付着した場合**  
散布で衣服がぬれたり濃い液がかかつた時は、すぐに衣服を脱がせ、皮膚を大量の水と石けんでよく洗います。洗浄は最低15分以上行います。

**●吸い込んだ場合**  
速やかに新鮮な空気の場所に移動し、衣服をゆるめ、深呼吸させます。

ビニールハウスや温室のように、密閉された場所での散布は中毒事故が起こりやすいので気をつけましょう。

### ●眼に入った場合

直ちに蛇口の水、やかんの水のような流水で十分に洗眼します。

### ●その他

中等症の場合はすぐに病院へ行きます。その際、どんな農薬を使っていたのか医師がわかるように、農薬の入つていたビンやラベルを持って行くようにしましょう。

**農薬の種類や剤型によつては、誤飲または被爆後重篤な中毒症状を発現するまでに、数時間から数十時間を要することがあるので、安易に軽症とみなすことは危険です。**

